

## 2 資質・能力を育むための授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～

### ◇ 資質・能力を育むために

・これから求められることは、知識をいかに活用することができるか

### ◇ 調査結果

### ◇ 国語について

### ◇ 算数・数学について

### ◇ 理科について

### ◇ ICT 機器を生かしたこれからの学習活動とは

## 2 資質・能力を育むための授業づくり

### ～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～

#### ◇資質・能力を育むために

#### これから求められることは、知識をいかに活用することができるか

平成29年3月に公示された学習指導要領<sup>5</sup>では、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて再整理され、これらの資質・能力の3つの柱が相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。そのための授業改善の一つとして、学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現が求められています。そこでは、教師が主役ではなく、学習の主役は児童・生徒です。「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」といった3つの資質・能力を育成することを目指して授業改善を図っていきます。「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点であり、資質・能力を育むことが授業の目的です。授業を通して、単元を通して、教育課程を通して、子どもたちにどのような姿になってほしいのか、また、担任として、学年として、学校としてどのような力をつけていきたいのか、小さな視点ではなく、大きな視野をもって、子どもたちの成長を願い、よさを育んでいく必要性があります。

5【学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

（小学校学習指導要領総則第3・1(1)より：中学校については児童を生徒とし、内容については同様の記載）

また、令和3年1月に中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育<sup>6</sup>』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、学習指導要領に示す、誰一人取り残すことのない持続可能な社会の創り手の育成をめざし、そのツールとしてのICTを基盤としながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」がセットで重視されています。児童生徒一人ひとりの興味関心や発達の状況等を踏まえて、それぞれの個性を伸ばし資質・能力を高めつつ、学級集団や学習集団において、子ども同士や子どもと教師、子どもと地域の方々など、多様な他者との関わりを通して、よりよい学びを創り出すために、学び合い、高め合う関係性を大切にできるような授業づくり・学級づくりを目指していきます。

---

6 社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた中、子供たちの資質・能力を確実に育成する必要があるためには、新学習指導要領の着実な実施が重要であるとした。その上で、我が国の学校教育がこれまで果たしてきた役割やその成果を振り返りつつ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする社会の急激な変化の中で再認識された学校の役割や課題を踏まえ、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」とした。ここでは、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指している。

（「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）より）

## ◇調査結果

学習指導要領の趣旨を踏まえ、全国学力・学習状況調査においても平成31年度から問題形式が変更され、知識・活用を一体的に問う形式が中心となっています。「知識」と「活用」は分けて育成されるのではなく、知識を活用した学習を通して知識の定着や知識理解の深まりが図られると考えられます。

一方で学習指導要領では、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育む、とされており、知識の確実な習得が学力形成の前提となることを示しています。

## 調査結果 小学校 国語

## 令和7年度 調査結果 小学校【国語】

分類			区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
					寒川町	全国との差	全国（公立）
全体				14	64	-2.8	66.8
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	69.6	-7.3	76.9	
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	61.3	-1.8	63.1	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	82.8	1.6	81.2	
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	62.4	-3.9	66.3	
		B 書くこと	3	67.8	-1.7	69.5	
		C 読むこと	4	54.4	-3.1	57.5	

## 令和6年度 調査結果 小学校【国語】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				寒川町	全国との差	全国（公立）
全体			14	62	-5.7	67.7
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	4	55.4	-9.0	64.4
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	85.3	-1.6	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	67.2	-7.4	74.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	58.1	-1.7	59.8
		B 書くこと	2	61.1	-7.3	68.4
		C 読むこと	3	67.2	-3.5	70.7

※濃い黒い網掛けは全国平均正答率との差が10ポイント以上、薄い黒の網掛けは全国平均正答率との差が5ポイント以上(以下同様)

## 令和5年度 調査結果 小学校【国語】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				寒川町	全国との差	全国（公立）
全体			14	63	-4.2	67.2
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	66.4	-4.8	71.2
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	61.5	-1.9	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	68.1	-4.5	72.6
		B 書くこと	1	22.2	-4.5	26.7
		C 読むこと	2	65.5	-5.7	71.2

## 調査結果 中学校 国語

## 令和7年度 調査結果 中学校【国語】

分類			区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
					寒川町	全国との差	全国（公立）
全体				14	49	-5.3	54.3
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	42.4	-5.7	48.1	
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	0				
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0				
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	48.9	-4.3	53.2	
		B 書くこと	5	45.2	-7.6	52.8	
		C 読むこと	3	58.3	-4.0	62.3	

## 令和6年度 調査結果 中学校【国語】

分類			区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
					寒川町	全国との差	全国（公立）
全体				15	56	-2.1	58.1
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	3	54.9	-4.3	59.2	
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	56.9	-2.7	59.6	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	83.0	7.4	75.6	
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	57.5	-1.3	58.8	
		B 書くこと	2	66.3	1.0	65.3	
		C 読むこと	4	43.8	-4.1	47.9	

## 令和5年度 調査結果 中学校【国語】

分類			区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
					寒川町	全国との差	全国（公立）
全体				15	64	-5.8	69.8
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	53.8	-13.7	67.5	
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	58.7	-4.7	63.4	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	71.0	-3.7	74.7	
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	79.9	-2.3	82.2	
		B 書くこと	2	57.8	-5.4	63.2	
		C 読むこと	4	59.3	-4.4	63.7	

## 調査結果 小学校 算数

## 令和7年度 調査結果 小学校【算数】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国（公立）
全体		16	55	-3.0	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	58.8	-3.5	62.3
	B 図形	4	54.1	-2.1	56.2
	C 測定	2	55.3	0.5	54.8
	C 変化と関係	3	57.8	0.3	57.5
	D データの活用	5	59.6	-3.0	62.6

## 令和6年度 調査結果 小学校【算数】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			寒川町	全国との差	全国（公立）
全体		16	58	-5.4	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	60.7	-5.3	66.0
	B 図形	4	60.5	-5.8	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	46.5	-5.2	51.7
	D データの活用	4	56.2	-5.6	61.8

## 令和5年度 調査結果 小学校【算数】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国（公立）
全体		16	58	-4.5	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	61.5	-5.8	67.3
	B 図形	4	46.1	-2.1	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	66.6	-4.3	70.9
	D データの活用	3	59.6	-5.9	65.5

## 調査結果 中学校 数学

## 令和7年度 調査結果 中学校【数学】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国（公立）
全体		16	36	-12.3	48.3
学習指導要領の領域	A 数と式	5	32.1	-11.4	43.5
	B 図形	4	35.6	-10.9	46.5
	C 関数	3	36.5	-11.7	48.2
	D データの活用	3	43.8	-14.8	58.6

## 令和6年度 調査結果 中学校【数学】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国（公立）
全体		16	48	-4.5	52.5
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	47.8	-3.3	51.1
	B 図形	3	33.2	-7.1	40.3
	C 関数	4	57.6	-3.1	60.7
	D データの活用	4	48.3	-7.2	55.5

# 令和5年度 調査結果 中学校【数学】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国（公立）
全体		15	43	-8.0	51.0
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	53.5	-9.5	63.0
	B 図形	3	24.4	-8.8	33.2
	C 関数	4	45.3	-5.9	51.2
	D データの活用	3	43.6	-4.9	48.5

【参考】各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意。

〈出典〉令和7年度全国学力・学習状況調査 報告書（文部科学省 国立教育政策研究所）



## 調査結果 小学校 理科

## 令和7年度 調査結果 小学校【理科】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				寒川町	全国との差	全国（公立）
全体			17	54	-3.1	57.1
学習指導要 領の区分・ 領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	44.9	-1.8	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	50.5	-0.9	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	45.9	-6.1	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	64.0	-2.7	66.7

## 調査結果 中学校 理科

## 令和7年度 調査結果 中学校【理科】

## IRTバンド集計値

IRT バンド	割合(%)		
	寒川町	全国との差	全国 (公立)
5	2.9	-3.3	6.2
4	15.1	-5.2	20.3
3	42.2	0.2	42.0
2	34.6	7.3	27.3
1	5.2	1.0	4.2

	平均IRTスコア
寒川町	472
全国(公立)	503

## ◇ 国語について

## 【小学校】

昨年度以前から課題にあがっている「言葉の特徴や使い方に関する事項」についてみると、小学校では引き続き基本的な漢字の読み書きに課題があることがわかります。

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		
			寒 川 町	全 国 と の 差	全 国 (公 立)
2 四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す (このみ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で 正しく使うことができるかどうかをみる	77.7	-3.9	81.6
2 四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す (あつい日)		61.5	-10.6	72.1

## 問題 小学校 2 四イ

【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す (あつい日)

下線の部分は「暑」が解答となります。同音異義語として、「熱い」「暑い」「厚い」があることから、その文章内での意味に応じて使い分ける必要があります。正確に書く力を身に着けていることはもちろん、文や文章の中で使うとともに書くことが重要であり、知識を活用しながら学習することで、知識の定着とともに知識理解の深まりを図ることが重要です。

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		
			寒 川 町	全 国 と の 差	全 国 (公 立)
2 三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に 詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく 書いたりするなど、自分の考えが伝わるように 書き表し方を工夫することができるかどうかを みる	58.2	-3.1	61.3

## 問題 小学校 2 三

【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く

一方、問題 2 三は記述式の問題ですが、正答率は 58.2%と全国平均と大きな差はなく、示された情報を活用して記述することのできる児童が多く育っていることがわかります。なお、無回答率は 4.6%であり全国平均の 5.0%を下回っています。【児童質問紙調査 (4 4)「国語の勉強は得意ですか」】によると、60%以上の児童が国語の勉強は得意とい

う認識があり、前向きに国語の学習に取り組んでいることが書く力を含めた言語能力の向上に結び付いていることが伺えます。

児童数の割合(%)

質問 番号	質問事項	選択肢					
		1	2	3	4		そう思う (1+2)
(44)	国語の勉強は得意ですか	寒川町	23.5	40.9	24.0	11.6	64.4
		全国(公立)	21.3	40.1	26.6	11.9	61.4

1 とてもそう思う    2 そう思う    3 あまりそう思わない    4 そう思わない

### 【中学校】

中学校においても「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国(公立)
1ー	変換した漢字として適切なものを選択する(かいしん)	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	31.8	-3.4	35.2
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる	52.9	-8.1	61.0

### 問題 中学校 3 三

「しきりと」の意味として適切なものを選択する

問題3三では、「しきりと」の意味を「何度も」という解答を選んでいる生徒はおよそ50%であり、基本的な語彙を豊かにする必要があります。授業での学習はもちろん、日常的な読書も含めて、幅広い生活の中で多様な活字に触れる機会を設けることで、語彙を豊かにするとともに、日本語で大切にされてきた繊細な表現を学んでいくことが期待されます。

生徒数の割合(%)

質問 番号	質問事項		選択肢					
			1	2	3	4	5	6
(21)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	寒川町	1.6	5.2	8.4	15.1	19.8	47.5
		全国(公立)	3.6	6.0	11.8	19.0	14.8	41.8

1 2時間以上    2 1時間以上、2時間より少ない    3 30分以上、1時間より少ない  
 4 10分以上、30分より少ない    5 10分より少ない    6 全くしない

質問 番号	質問事項		選択肢					
			1	2	3	4	5	6
(22)	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）	寒川町	20.1	26.1	32.1	13.6	4.4	1.3
		全国(公立)	17.4	21.5	30.8	14.8	9.4	3.0

1 0～10冊    2 11～25冊    3 26～100冊    4 101～200冊    5 201～500冊    6 501冊以上

## ◇ 算数・数学について

### 【小学校】

小学校の算数では、基礎・基本の確実な習得に課題が見られます。特に、分数や、単位当たりの量といった数量の概念を獲得していく過程は、その後の中学校や高等学校での学習においても土台となってくる部分でもあることから、丁寧に理解を進めていくことを改めて認識する必要があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国(公立)
3(1)	0.4 + 0.05について、整数の加法で考えときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	68.4	-5.7	74.1
3(2)	$3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	17.2	-5.8	23.0
3(4)	$1/2 + 1/3$ を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	69.1	-12.2	81.3

## 【中学校】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国(公立)
1	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	28.2	-3.6	31.8
2	果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	35.5	-16.4	51.9
3	$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが $50^\circ$ のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる	42.6	-15.5	58.1
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうかをみる	22.6	-12.1	34.7
5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる	19.8	-22.7	42.5

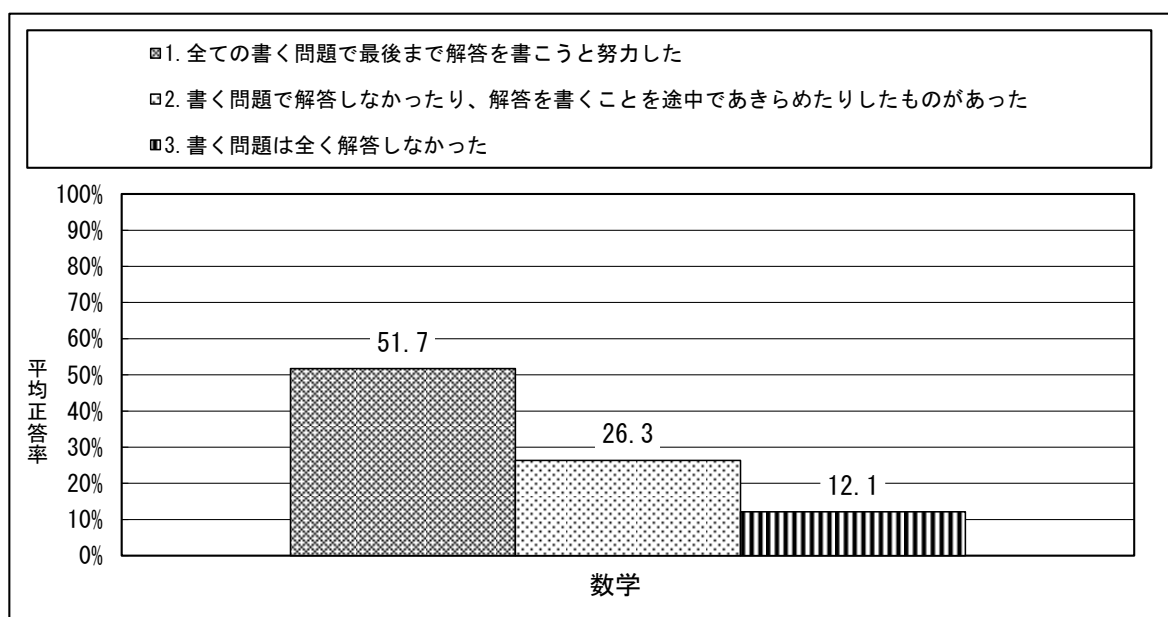
中学校では特に基礎・基本の確実な習得が求められます。問題1、3、5からは「素数」「外角」「相対度数」といった基本的な用語を十分理解していないことがわかります。また、パーセント濃度を文字式を使って表す問題2からは、算数から数学となり急激に使用頻度の増えた、文字を用いた式が十分に扱えていないことがわかるため、数学を学び始めた初期の頃からつまずきがあった可能性が考えられます。

数学の問題では問題文が長く、理解に時間がかかる問題が多く見られ、解答者に粘り強さが必要とされる内容でした。【生徒質問紙調査(数1)「今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」】と教科の平均正答率とのクロス集計結果では、問題に粘り強く解答した生徒は国語の正答率が約55%、数学が約52%でした。一方、途中であきらめてしまった生徒は、国語の正答率が約45%でしたが、数学が約26%と非常に低くなっています。数学では、国語以上に解答者の粘り強く書こうとする力が問われたといえます。

数学の課題は、中学校入学時の生徒の学習アセスメントや基礎・基本の学習の積み重ね方、根本的な数学の価値や興味・関心を高める工夫など、数多くの要素が複雑に重なり合っています。そのため、そういった課題全体に対応するために、生徒には粘り強く学習に取り組む姿勢がさらに必要であり、教職員にも粘り強く指導に当たる姿勢が今まで以上に重要となっています。

質問番号	質問事項
(数 1)	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

選択肢		生徒数の割合 (%)	平均正答率 (%)	
			国語 (14問)	数学 (15問)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	43.7	55.1	51.7
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた	48.5	44.9	26.3
3	書く問題は全く解答しなかった	6.9	38.9	12.1



## ◇ 理科について

## 【小学校】

小学校においては、全体としては全国平均との差は大きくないものの、国語や算数と同様、基礎・基本の定着に課題が見られます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		
			寒川町	全国との差	全国(公立)
2(3)	ペルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	71.6	-6.4	78.0
3(1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる	63.5	-7.2	70.7
3(2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる	39.2	-6.4	45.6

一方で、以下のように「理科の勉強は得意」「理科の勉強は好き」と答える児童がおよそ80%という質問紙調査の結果もあることから、学校における授業展開は児童の興味を引き付けて実施されていることがわかります。引き続き、児童の気持ちを引き付けつつ、基礎・基本の確実な習得を目指すことが大切です。

質問番号	質問事項		児童数の割合(%)					
			選択肢					そう思う (1+2)
			1	2	3	4	5	
(60)	理科の勉強は得意ですか	寒川町	48.7	33.8	12.1	5.3		82.5
		全国(公立)	40.9	37.5	15.3	6.2		78.4
(61)	理科の勉強は好きですか	寒川町	53.0	24.0	15.2	7.8		77.0
		全国(公立)	51.7	28.4	12.4	7.4		80.1

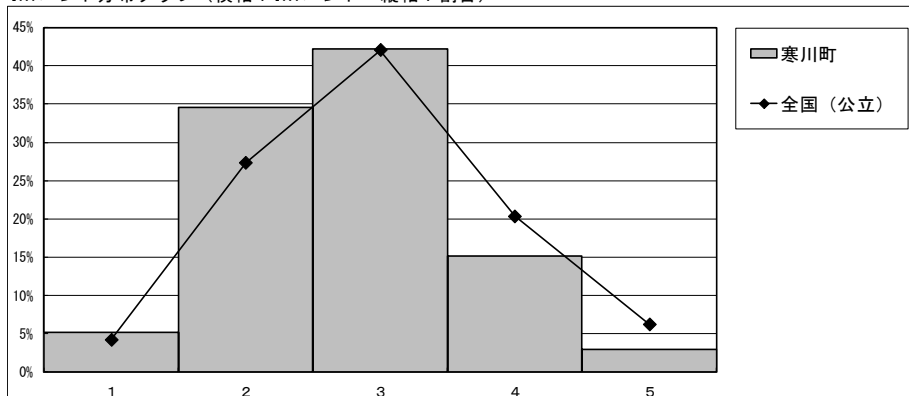
1 とてもそう思う    2 そう思う    3 あまりそう思わない    4 そう思わない

## 【中学校】

中学校では、問題が一部を除き公開されていない状況のため、問題の内容からの分析は難しい面があります。今回から始まった IRT スコアの分布である、IRT バンド分布グラフにおいては、標準的な正規分布の結果では、バンド3が約40%、2・4が約23%、1・5

が約7%とされています。実際のスコアは誤差が生じますが、寒川町においてはバンド3は約40%となっている一方で、2が約35%、4が約15%となっています。

IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



IRTバンド集計値

IRT バンド	割合 (%)	
	寒川町	全国 (公立)
5	2.9	6.2
4	15.1	20.3
3	42.2	42.0
2	34.6	27.3
1	5.2	4.2

難易度が3を超える問題に取り組めている生徒の割合が少ない状況の要因は、【生徒質問紙調査（62）「理科の授業の内容はよく分かりますか」】から、授業内容の理解が十分ではないことが考えられます。さらに【生徒質問紙調査（66）「理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか」】では全国と比べても「そう思う」と答えた生徒は少なく、学習内容を自分事として落とし込めていないことから理解が深まっていない様子が伺えます。新たな学習内容に取り組んだ際に実生活との関わりを生徒同士で話し合う場面を作ったり、授業や授業以外での様々な場面で、学習内容が生活の中とつながっている例を紹介するなど、多角的な取り組みが必要です。現実世界の一部を取り出して分類、分析をして体系化してきた学問が理科であることを再確認し、理科と実生活との関わりを意識できるような学習活動を行っていくことが必要です。

児童数の割合 (%)

質問 番号	質問事項		選択肢					そう思う (1+2)	全国 との差
			1	2	3	4			
(62)	理科の授業の内容はよく分かりますか	寒川町	21.4	40.5	28.2	9.7		61.9	-9.5
		全国(公立)	26.1	45.3	21.2	6.9		71.4	
(66)	理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか	寒川町	6.8	32.1	36.6	23.5		38.9	-11.8
		全国(公立)	13.6	37.1	34.0	14.7		50.7	

1 とてもそう思う    2 そう思う    3 あまりそう思わない    4 そう思わない



## ◇ICT 機器を生かしたこれからの学習活動とは

## ICT 機器をどう使っていくか、再確認することが必要です

寒川町では児童・生徒の ICT 機器の活用が進んでおり、全国平均と比べても使用頻度は高く、【児童質問紙（28）】「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」によると、小学校では 60%以上の児童がほぼ毎日使っています。また、【生徒質問紙（28）】「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」によると、中学校では 90%以上の生徒がほぼ毎日使っています。

児童数の割合（％）

質問番号	質問事項		選択肢							
			1	2	3	4	5	6		ほぼ毎日 (1+2)
(28)	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	寒川町	33.3	28.3	24.2	7.8	2.8	3.5		61.6
		全国(公立)	24.5	22.2	25.0	18.0	7.2	3.1		46.7

1 ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)    2 ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)    3 週3回以上    4 週1回以上  
5 月1回以上    6 月1回未満

生徒数の割合（％）

質問番号	質問事項		選択肢							
			1	2	3	4	5	6		ほぼ毎日 (1+2)
(28)	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	寒川町	79.9	13.6	3.7	1.0	0.5	1.3		93.5
		全国(公立)	29.5	23.7	23.3	15.7	5.3	2.0		53.2

1 ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)    2 ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)    3 週3回以上    4 週1回以上  
5 月1回以上    6 月1回未満

ICT 機器を使うことで、情報を整理したり、自分以外の多くの考えに触れたりする機会を得やすくなっており、学習を深めていく道具としても活用できます。しかし、【児童・生徒質問紙調査（29-3）「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理することができますか」といいますか】【児童・生徒質問紙調査（29-4）「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができますか」といいますか】の結果からは、使用頻度と比べて必ずしも思考力・判断力・表現力の育成には結びついてはいないことが読み取れます。さらに、質問紙調査に対して「とてもそう思う」と答えた割合は、全国と比べても低い傾向が見られます。ICT 機器を使うことには慣れていても、それを使って学習効果を高めたり、自信をもって表現したりすることはまだ不十分なようです。ICT 機器をどのように使うことで学びが深まるのか、今回の学

習場面ではそもそも ICT 機器を使う必要があるのか等、改めて ICT 機器の活用方法を考え、教職員同士でも相談しながら学習活動を進めていくことは現在の大きな課題といえます。

ICT 機器の利点の一つとして、物理的な距離や空間にとらわれずに情報共有や双方向コミュニケーションができるということがあります。これらは協働的な学びのための大きな武器になる一方で、深い学びにつなげるためには、自分事へと落とし込むといった個人での思考が欠かせません。その意味で、個で考え、他者と共有し、改めて個に戻すという学習構造を授業展開の中でどう設定していくのかが重要です。振り返りもその一部分になるでしょう。どの場面で ICT 機器が必要になるのか、どんな機能を使うのか、もう一度見つめ直すことが大切です。ICT 機器が当たり前のように使われるようになっていくからこそ、使い方の再確認をすることで、学習活動をさらに充実させることが期待できます。

### 【小学校】

児童数の割合（％）

質問 番号	質問事項		選択肢					そう思う (1+2)
			1	2	3	4		
(29-3)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	寒川町	19.7	48.0	29.0	3.3		67.7
		全国(公立)	26.9	42.4	25.7	4.9		69.3
(29-4)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	寒川町	25.5	42.9	26.8	4.8		68.4
		全国(公立)	38.6	38.1	18.2	5.0		76.7

1 とてもそう思う    2 そう思う    3 あまりそう思わない    4 そう思わない

### 【中学校】

生徒数の割合（％）

質問 番号	質問事項		選択肢					そう思う (1+2)
			1	2	3	4		
(29-3)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	寒川町	19.8	52.2	21.7	5.5		72.0
		全国(公立)	21.1	42.2	29.8	5.7		63.3
(29-4)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	寒川町	25.6	47.0	19.6	6.8		72.6
		全国(公立)	31.8	44.8	17.7	4.7		76.6

1 とてもそう思う    2 そう思う    3 あまりそう思わない    4 そう思わない